

会議録

会議の名称	第14回小金井市子ども・子育て会議	
事務局	子ども家庭部子育て支援課	
開催日時	令和7年8月5日(火) 18時30分から19時45分まで	
開催場所	801会議室	
出席者	委員	会長 金子 嘉宏 委員 会長職務代理 萬羽 郁子 委員 委員 亀山久美子 委員 喜多 明人 委員 後藤 律子 委員 小峰 優子 委員 佐藤 歩 委員 清水 圭樹 委員 水津 由紀 委員 竹内 敬子 委員 長岩 蒼樹 委員 長谷川 渉 委員 村田 由美 委員 安岡 圭子 委員
	事務局	子ども家庭部長 堤 直規 子育て支援課長 鈴木 美苗子 子育て支援係長 古賀 誠 保育課長 黒澤 佳枝 保育施策調整担当課長 中島 良浩 児童青少年課長 平岡 美佐 児童青少年係長 清水 康之 学童保育係長 野村 哲也 児童青少年課主査 永井 桂 こども家庭センター長 富田 絵実 母子保健・児童福祉統括担当課長 笠井 綾子
傍聴の可否	可	
傍聴者数	2人	
会議次第	1 開会 2 メガロス東小金井学童クラブにおけるプール事故について 3 令和6年度子どもオンブズパーソン活動報告会について(口頭報告) 4 子ども権利部会における検討事項について 5 「のびゆくこどもプラン 小金井」の進捗状況の点検・評価 6 その他 7 閉会	
発言内容 発言者名(主な 発言要旨)	別紙のとおり	
提出資料	資料65 子どもの権利部会審議内容の報告について(案)	

	<p>資料66 「のびゆくこどもプラン小金井（第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画）」事業進捗状況に対する令和7年度評価について（報告）案</p> <p>資料67 メガロス東小金井学童クラブにおけるプール事故について</p> <p>参考資料21 意見・提案シート</p>
--	---

令和7年8月5日

- 金子会長 ただいまから第14回小金井市子ども・子育て会議を開催いたします。
- 本日は、福井委員より、欠席もしくは遅刻ということで御連絡をいただいております。また、数名まだ来られていない方もいらっしゃいますが、会を始めさせていただきたいと思っております。
- それでは、次第の(2)メガロス東小金井学童クラブにおけるプール事故についてを行います。事務局ほうから説明をお願いいたします。
- 児童青少年課長 遅くなりまして大変申し訳ございません。子どもの権利部会についてでございます。大変失礼いたしました。令和7年7月28日月曜、午前10時30分頃、本市が補助金を交付しております民設民営学童保育所メガロス東小金井学童クラブにおきまして、在籍児童1名がメガロス武蔵小金井店でのプール遊び中お亡くなりになるという、決して起きてはならない事故が発生いたしました。亡くなられたお子様の御冥福を謹んでお祈り申し上げます。また、御遺族の皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。
- 本資料は、同月30日に行いましたプレスリリースとなっております。現在市は、民間民営学童保育所の運営に関し指導等を行う立場から、個人情報の取扱いは細心の注意を払い、事故原因の究明、安全対策、再発防止などの検討を行うため、第三者検討委員会の設置を予定しております。
- また、児童や保護者の心のケアにつきましては、御希望に応じて児童館での心理士による相談への御案内等、対応を図っていております。
- 報告は以上でございます。
- 金子会長 ありがとうございます。
- 子ども家庭部長 ちょっと補足させていただきます。現在、市が受けている報告は、これでは事故が起きたときの詳細が分からないということではありますけれども、このような報告を受けている状態でございます。事業者としても、今後、事故の具体的な原因確認、再発防止の検討をしているところでありますし、また、こういう重大事故でありますので、警察のほうの捜査も入っているところでありまして、現在報告できる事故の内容としてはこういうことになっております。

その上で市としまして、原因の究明と再発防止の検証について検証委員会を立ち上げて実施する方向でございまして、子ども・子育て会議おきまして、直近のところではタイミングがありますが、メガロスからの正式な報告があった時点、それから、市の検証報告がまとまった時点、検証報告、第三者的な委員会の提言ということになりますので、それを受けて市が対策をまとめた時点というところではきちっと報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。今日のところの報告できる内容としてこのようなものになります。

○金子会長 事務局から御説明いただきましたが、確認されたいことがありましたらお受けしたいと思っております。なお、御発言の前にはお名前をおっしゃっていただくようお願いいたします。いかがでしょうか。

○後藤委員 メガロスからの発表で、子どものスイミングのクラスは全面休止というのが発表されていたんですが、東小金井の学童は今、通常どおり子どもを受け入れている状態なんでしょうか。

○児童青少年課長 メガロス東小金では、現在運営はしてございます。ただ、課外活動につきましては、中止をさせていただいております。

○後藤委員 分かりました。

○清水委員 自分の子どももメガロスに通わせていたんですけども、去年もたしか同様の事故、そのお子さんは助かったんですけど、溺れてしまったという事故があって多分1年もたたないぐらい、またこういうことがあって、すごい親としてはいたたまれない気持ちなのかなというところはある一方で、もちろん人的なところでもっと防げたところはあるとは思いますが、何かもう一步踏み込んで、例えばA Iカメラの導入ですとか、何かそういったシステムの導入も市としてお考えができるのであればお願いしたいなというところが1つ意見です。

○児童青少年課長 A Iカメラという御提案というのは、学童の教室の中にあるということですか。

○清水委員 いや、プールで、今回見ている人員の役割分担があんまり整理されてなかったのか、見ている人の、注意して見ていたもの見落とししてしまったのかというところがあるとは思いますが、人の目でやるのも多分100%はないと思うので、そういったところで機械を導入するというところで、それは小学校のプールの授業でもそうなのかもしれないですけども、何かそういった危険が考えられるところは、何かそういった仕組みを考えていかないと、なかなか同様のことが、確率を少なくするという方法としては、オペ

レーションだけだと限界があるのかなというところは思っております。

○児童青少年課長 ありがとうございます。今回の施設は民間の施設でございますので、ちょっと市からというところはなかなか難しいというところがございます。学童でのプールの活用というのは、公設では想定を、実際にやっていないですし、ほかの民設民営学童保育所でも予定はないというところで、学童が今、大規模化をしているという状況もございますので、学童でも、学童保育中のプール施設は中止としている状況でございます。

AIカメラの導入につきましてましては、ちょっとプール施設というところになりますと、何かの際に、こういった御意見がありましたというところではお伝えできるかと思っておりますので、今日はこのような御回答になります。

○金子会長 皆さんから、ほかにはいかがでしょうか。

この会議体においては報告を受けるというか、まだ原因も分かっていないと思いますので、検証委員会を立ち上げるということなので、今のAIカメラ等、テクノロジーをどう使っていくかということも含めて検討をされていくことになるかなというふうに思いますし、当然この段階では本当に再発をどう不正でいくかということが一番重要なことになっていくと思いますので、引き続き御報告いただけるということですので、引き続き御議論できればなというふうに思います。

もしなければ、以上で（2）のほうは終了いたします。

次に、次第の（3）令和6年度子どもオンブズパーソン活動報告会について及び（4）子どもの権利部会における検討事項についてを一括して行います。事務局からの説明をお願いいたします。

○児童青少年課長 今回の会議でも御報告をさせていただきたいところがございますけれども、子ども・子育て会議の次の任期においても、次の3点の課題を検討するため、子どもの権利部会を継続させていただければと思っております。

1点目が、子どもの意見・議論が実現につながる仕組みづくり、2点目が、子どもの意見・議論を支援する人材の育成、3点目が、大人を含めた市民全体が子どもの権利についての認識を高める施策の検討でございます。詳細につきましては、資料65を併せて御覧ください。一部審議結果が空欄となっておりますが、8月13日に今期最後の子どもの権利部会を開催いたします。そこで審議した内容を本報告書に追加し、子ども・子育て会議の委員の皆様へ御報告をさせていただきたいと思っております。

本日は、子どもの権利の日のアンケートについて、結果がまとまりましたので、御報

告をさせていただきたいと思っております。

前回会議でも御案内したとおり、小学校6年生及び中学生を対象に、子どもの権利の日のイベントの周知方法についてアンケートを実施しました。詳細は、資料65の別紙資料を御覧ください。

短いアンケート期間にもかかわらず、2,720名の子どもたちから回答を得ることができました。こちらは教育委員会、学校の多大なる御協力のおかげだと思っております。大変にありがとうございます。

アンケートの結果、こちらから提示しましたイベントの周知方法のうち、一番多く支持されましたのが、駅や学校などにポスターを貼るという案で、次に多かったのが、XなどのSNSで宣伝するという案でした。そのほか自由意見も寄せられましたので、何点か資料に掲載してございます。これらの子どもたちの意見を参考にしながら、子どもの権利の日のイベントの周知方法、そしてイベントの内容についても、子どもたちの会議及び、子どもの権利部会で検討していく予定でございます。

事務局からの報告は以上になりますが、もし部会長から何か補足がありましたら。

○水津委員 権利の日の作成については、併せて子どもの意見表明を実現するためということも同時にということで、検討していくということを次年度、また細かいことを伺いを出していきたいというふうに思っています。

権利の日というものが、ただの決まった日にちということにならないように、それがすごく子どもの権利に対して有効であるような、大きな動きになるような内容になれるように、そこは行政と一緒に考えていきたいというふうに思っております。喜多先生もよろしく願いいたします。

○金子会長 喜多先生、御発言お願いします。

○喜多委員 では、オンブズの報告の前に。子どもの権利の日のほうは、通常、子どもの権利の日というのは、子どもの権利条例に組み込まれている場合が多いんです。川崎市はじめ条例にもともとなっていて、毎年条例を普及啓発していくためのそういう制度として。今回、小金井市の場合には条例には入ってなかったものですから、今後子どもの権利を条例にしていこうかという話になっております。ただ、あまり行政とか、こちらの大人の側が仕切るのではなくて、できれば子どもたちに権利の日を企画運営してもらえるような方向が、特に子どもの参加を今後、仕組みとして部会としても検討している最中なんです。できれば子どもの権利の日をうまくリンクさせて、子どもたちの非常に具体的

な目標になるようになればいいかなというふうには思っております。一応そんなことを考えています。

○金子会長 ありがとうございました。

引き続きお願いします。

○児童青少年課長 それでは、7月24日に萌え木ホールで行われました子どもオンブズパーソンの令和6年度の活動報告会について御報告いたします。

今年是小金井版「子どもの権利学習」ワークショップ&子どもオンブズパーソン令和6年度活動報告会と題しまして、ワークショップと活動報告会の2部構成で実施し、40名の方に御来場いただきました。

第1部の子どもの権利学習ワークショップでは、ふだん市内の小学校6年生を対象に実施している子どもの権利の授業を、子どもオンブズパーソンが実演し、子どもの権利とは何か、子どもの権利を守る、大切にするとはどういうことという2つのテーマを軸に事業を進めました。

第2部が、令和6年度の活動報告会です。本日お配りした活動報告書をもとに、子どもオンブズパーソンが令和6年度の相談の状況と事例、小学校での権利学習を含めた普及啓発活動について報告をいたしました。報告の中で、本市における相談活動の特徴として、子ども自身が直接相談に来ることが多く、子どもからの相談は電話よりも面接のほうが多いこと。2点目、大人からの相談であっても、子どもと直接話すことを大切にしているため、新規相談48件のうち、7割を超える34名の子どもと話げできたこと。3点目、相談者の学年を見ると、小学校4年、5年、6年生の相談が多く、6年生の相談は、全ての子ども本人からである。これは小学校6年生を対象に、子どもの権利学習を実施していることが影響していると思います。こういった特徴が挙げられております。

また、第2部では、今年の4月1日に新しく子どもオンブズパーソンに就任した竹内オンブズを紹介するコーナーを設けました。竹内オンブズが子どもの権利の分野に興味を持ったきっかけ、竹内先生は、世田谷区の子ども権利擁護機関に勤めていた経歴がございます。そのようなことから、世田谷区と小金井市の違いや、そういった今までの御経験などのお話をいただきました。

活動報告の終わりには、代表の半田オンブズから、今後力を入れていく取組活動として、5点紹介をさせていただきます。1点目が、子どもの権利学習については、小学生を加え、今年度から中学生を対象に実施していくこと。2点目、保育園、認定こども園、

児童館、学童保育所の職員を対象とした子どもの権利に関する研修の実施。3点目、保護者、地域住民への子どもの権利の普及啓発。4点目、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、学校教職員などの学校関係者と子どもの権利、子どもの最善の利益の在り方について対話すること。5点目、相談者と向き合うとともに考えていくことを丁寧に行っていくこと。今後力を入れていく取組活動として、以上の5点が発表されたところでございます。

なお、来場者の皆様にはアンケートを実施しました。ウェブでの回答期限を8月12日までとしているため、最終的な集計はまだこれからでございますが、これまでにいただいた回答の中から、子どもオンブズパーソンの活動について幾つか御意見をいただきましたので、ここで御紹介いたします。ほぼ原文どおりでちょっと御紹介いたします。

私は、子どもオンブズパーソン相談室を利用して、とても支えとなっております。気持ちを吐き出す場があるのとないのとでは大きな違いだと思います。権利教育はいつから必要なのか、親が知るような取組があってもよい。居場所事業を行っている。大人に対しての子どもの権利学習も必要だと思うが、それを広げるためにはどのような手法があるのでしょうか。第三者機関として設置されているはずだが、市の権利侵害に対しても何もしないのであれば、存在の意味がない。浸透度が低く、相談件数が少ないことを踏まえて、子どもの権利の普及啓発に特化してアプローチを強化すべきだと思う。世田谷区のせたホッとのようなマスコットキャラクターがあると、子どもたちにとって親しみやすい要因の1つになると思う。なお、アンケートは結果が出そろい、集計結果がまとまりましたら、次回の会議等で報告をさせていただきたいと思っております。

子どもオンブズパーソンの活動報告会につきましては、以上となります。

○子ども家庭部長 オンブズパーソンの活動報告について、幾つかだけ補足させていただきます。

報告書24ページを御覧いただきたいと思いますが、令和6年度と令和5年度を見たときには、令和5年度が57件に対して令和6年度は48件に減少しています。ただ、26ページと27ページを見ていただきたいんですが、例えば小学校6年からの相談10件が、全部子どもからの10件なんです。こういった上で、件数は若干減少しますが、何か大きく減少したという認識はオンブズパーソンの先生方にはなく、つながりとかというのはつくられるというふうなことだったと思っております。

また、特に28ページを御覧いただきたいんですが、活動件数が令和5年度455件だったのが、令和6年度は231件で激減しているように見えます。ただ、こちらは2

9ページを御覧いただくと分かる通り、21回以上という、何回にもわたって関与するというふうなケースが減っていて、比較的短期、中期のところで話がまとまっていた、そういったケースが多かったためだというふうな御説明でございました。

また、課長からも説明があった通り、オンブズパーソンとしては、子どもたちとじかにつながってということ非常に大事にしておりまして、そちらについては、32ページからの事例紹介のところ、こちら、個人が特定されないように多少デフォルメされたものでありますが、相談の内容が分かる場所ですので、後で御覧いただければと存じます。

○金子会長 ありがとうございます。事務局から御説明いただきましたが、発言されたいことがありましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。3と4併せてという形になります。

確かに件数は、上限によってそれを評価するというのも何も違うんじゃないかなという気はしますので、別に相談がなかったから悪かったというわけではないかなというふうな気がします。

特にやっぱり意見表明とかに関しては、(3)のところに子どもの意見・議論を支援する人材の育成ということが書いてあります。やはり子どもだけで議論するとか意見を形成していくということになると、なかなか深いものになっていかないこともあり得ると思います。先生もよくお分かりのように、子どもたち、探求的な学びをしていくときに、子どもたち自分でもどんどん深めてはいくんですが、同時にやっぱりそこに大人の支援が入ると、より深いところまで子どもたちが行けるということになると思いますので、すごく(3)は重要だなと思いました。

また、主権者教育みたいなものが学校でも行われていると思うんですが、主権者教育と絡めていくということも、子どもの権利ということでは重要なのかなと思います。大人になったら、主権者として投票をしたりとか、いろんな主権を発揮していくと思いますので、そういうことも含めて何か子どもの権利というものが子どもたちに伝わっていくと、今だけのことでなくて、伝わっていくといいのかなというふうに思いました。

それでは、8月13日の子どもの権利部会終了後、子どもの権利部会会長から私のほうに、本会議の会長のほうに報告を踏まえて、子ども・子育て会議から市長宛ての報告書については、皆さんに情報を共有させていただきながら、私のほうで最終手続のほうはさせていただくこととなりますので、皆さんにはメールで共有するという形で行わせ

ていただければというふうに思います。

では、次第の（３）及び（４）を終了いたします。

次に、次第の（５）「のびゆくこどもプラン 小金井」の進捗状況の点検・評価を行います。事務局のほうから御説明をお願いいたします。

○母子保健・児童福祉統括担当課長 資料６の修正の説明をさせていただきたいと思います。資料６の３の１９です。３番の乳幼児健康診査の中にあります１歳６か月児健診受診率です。９５％となっておりますが、総数の間違いが見つかりまして、９８％に訂正をお願いいたします。大変申し訳ありませんでした。よろしくお願いいたします。

○子育て支援係長 続きまして、資料６の説明をさせていただきます。「のびゆくこどもプラン 小金井」（第２期小金井市子ども・子育て支援事業計画）事業進捗状況に対する令和７年度評価について（報告）の案となります。

前回からの変更点は、１ページ目に金子会長から市長宛てのかがみ文を追加し、裏面に、先ほどの子ども権利部会における検討事項を踏まえた文章を追加しております。

また、前回の会議において萬羽先生から御意見をいただきました３－３０ページの参考指標３点、「赤ちゃんとの異世代交流事業延べ参加者数」、「市民まつり参加者数」、「市民ボランティア受入者数」について、いずれも令和６年度実績の表記をゼロから文言による記載に修正しております。

なお、参考指標３点に係る修正箇所につきましては、事業担当課の児童青少年課から、補足説明があればお願いします。

○児童青少年課長 「のびゆくこどもプラン 小金井」の進捗状況の点検・評価の修正部分について説明いたします。

赤ちゃんとの異世代交流事業延べ参加者数をゼロとしていたものについては、この事業がコロナ禍後、乳幼児とのふれあい事業として実施している現場が複数あったため、指標として集計するため、令和５年度より統合して整理しました。新しい計画でも統合整理しております。

次に、市民まつり参加者、市民まつりボランティア受入人数をゼロとしていたものについては、市民まつり自体が中止となったため、中止と修正させていただきました。

説明は以上です。

○金子会長 御説明ありがとうございました。事務局から御説明いただきましたが、この件について御発言されたい方がいらっしゃいましたらお受けしたいと思います。最終ここで取り

まとめということになりますので、多分、前回の会議のときに御意見をいただいでいて修正をしたというところになっているので大丈夫かとは思いますが。

○亀山委員 修正とか関係なく、ちょっと教えていただきたいんですけども、市民まつりというのは中止が続いていますが、これは復活する可能性もあるのでしょうか。それとも、もう開催ができなくなっているということでしょうか。それをちょっと教えていただければと思います。

○子ども家庭部長 今、私のほうに報告を受けているのは、市民部のほうで2年間かけて検討することです。今年、来年でよかったと思うんですが、その上で新たな市民まつり、またはそれに代わるものとしてどういうことを進めていくかというのを検討している。以前参加していただいた団体に意見を伺ったり御対応をお願いするというのを、この間もしてきたというふうに聞いています。ですので、再開の可能性、または従前とは違う形だとしてもどういう形でできるかというのを、今、検討しているところだという状況だと思います。

○亀山委員 結果はいつ頃でしょうか。

○子ども家庭部長 2年間検討するというふうに聞いていたので、そういう意味では来年度に、令和8年度のところで結果を出すという考えなんだと思います。何月とかというところまでは聞いておりませんが、年度中ということですよ。聞いてない、もしくはすみません、ちょっと記憶が定かではなく申し訳ないです。

○金子会長 直接所管されているところではないと思いますので。

○水津委員 今の市民まつりのボランティアの受入れのところなんですけど、市民まつりとしての活動は現在していませんが、ほかのイベントで中高生を受け入れているという事実があるんですよね、健全育成の活動の中で。その辺のところってなかなか反映できないのがすごくこの施策の中の評価のもったいないところだなというふうに思っていて、何かそういう、ちょっとこれだとすごくやっていません、やりませんでした、ゼロですみたいな形にしか見えないんですけど、それぞれ現場では努力をして中学生のボランティアの受入れをしているので、何かそういうもう少し行間があるようなことがどこかに書けないものかなというふうに思います。感想です。すみません。

○金子会長 それで言うと、小学校でボランティア受け入れをされているんだろうなというふうに思いますので。まちのお祭りみたいな。

○水津委員 市民まつりに代わるお祭りという認識でやっているものだったものもあったので。で

も正確に言うと、市民まつりの行事ではないというのはよく分かっていますけど、何か何もやってなかったみたいになっちゃうとすると悲しいなと思った次第でございます。

○金子会長 報告ということになるとこういう書き方になってしまうので、書くとしたら表書きの裏に何か加えるかみたいなことはあり得るんですか。

○水津委員 もうこれからは難しいとは思いますが、こういう評価のときにそういう部分というのが、何か細かいところを見るといろいろそういうところがあって、訂正していただくのもどうかと思う部分もあるんですけど、そもそもにして行政施策の評価というところにもうちょっと踏み込んだものとか、何か色がつくようなものみたいなものを、今後やっぱりちょっと入れていけるような評価というのも検討できたらいいんじゃないかなというふうに、今さらに申し訳ないんですけど、思っていますということです。

○金子会長 報告書の在り方次第というか、評価の在り方次第を検討する必要があるとは思いますが、場合によっては健康診断的なこういうものも加えて何か別途フリーハンドの報告書みたいなものが加えられてもいいのかもしれないということですね。健康診断はしないといけないと思うので、そういう意味では、今後何かフリーハンドの報告みたいなものができると。

何かありますか。

○亀山委員 すみません、関連で。主催がどこかになるんじゃないですか。ここに載せるものの、主催者がどこかによって変わる、評価が。

○金子会長 これはあくまでもももとの評価基準の中に市民まつりって書いてあるので、この中には市民まつり以外の祭りのことは書けないということになると思います。ですが、フリーハンドでやるかと。どうぞ。

○子育て支援課長 確認なんですけど、今の御意見は、多分今回の評価の中で、実際、市民まつりは中止、休止なのでやっていないけれども、その代替として何かやっていたものがあるならば、そういったものでボランティアの活動は実際にはあったんだよというようなことが報告の中に表現されていけばよいのではないかと御意見でよろしいですか。

○水津委員 そうなんです。全くゼロ、なしですというよりは、そういう認識でやっているものがあるので、そこら辺がもう少し前に、全然本当になしってなしじゃないですか。

○子育て支援課長 やっているような印象が感じられるという。

○水津委員 そうですね、そこがもう少し見えたらうれしいなと思ったという感じです。

○子育て支援課長 ありがとうございます。今回はもうこれで御了承いただくということでよろしいで

すか。

○水津委員 はい。

○萬羽委員 改めて見ると、事業名称はそういうことも含まれる内容ですし、事業の内容自体も、市民まつりや子ども週間行事などでと書いてあるので、例えば人数には書けないけど、結果の中には「など」だったらば入れられるのではないかと。もうちょっと見えなくはないかなと思いました。すみません。はっきりそれだけとは言ってなくて、「など」の「など」は何だろうと思いました。

○子育て支援課長 多分参考指標としては分かりやすいように参考として資料を上げているので、その数を示しているというところではございますが、結果の文面にそういったものが書き込めたらよかったのかなということで受け止めさせていただきます。次回のこういった評価の在り方というところで、御指摘があった場合にはそのように促していきたいなというふうに思います。

○金子会長 何を載せて何を載せないかが難しくなると思うんです。

○小峰委員 今回はもう全然あれで、次回の提案として、子どもが地域の一員となるための学習と交流の場をつくりますということなので、子どもたちが今ボランティアということでは、ボランティアカードを使ってかなりボランティアを把握できるというのがあるので、教育委員会主体なんですけれども、そこをこれだけの数のボランティアの子たちがやっているという、多くの全体を見て地域に出ているんだという指標にしたらどうかというふうにちょっと考えました。次回で。

○金子会長 ボランティアカードは教育委員会ですか、学校ですか。

○小峰委員 学校、教育委員会のほうからもらっているものなんです。

○佐藤委員 本町小学校校長の佐藤でございます。大変言いづらいんですけど、次回に書くとしたら、ここに書かなきゃいけない反省は何かというと、縦割りで横のつながりが薄かったということはいつも申し上げていたんですけど、児童青少年課と教育委員会とそれぞれ所管するものが、似たようなことをばらばらにやっているという印象をどうしても受けちゃうかなという気はします。各種催物における中高生のボランティア、大分やっているんで、教育委員会主催で。むしろ生涯学習課の中では、コミュニティ・スクールということで、全校コミュニティ・スクールになっている中で、そういった地域に貢献できる、地域を担う子どもを育てるという部分は大分進めてやっているところで、児童青少年課とかこっち側のほうで予定どおりいかなかったとなるとところがちょっと残念か

なという気はします。

- 金子会長 何を評価するということになってくるかと。
- 佐藤委員 児童青少年課としてはこうだったという。
- 金子会長 ということなんだと思う。
- 佐藤委員 もちろんなるんだろうなというふうに思うんですが。
- 金子会長 子どもたちが駄目だったというわけではない。
- 佐藤委員 はい。ただ、青少年健全育成がこっちの管轄だとすると、相当青少年健全育成のほうで、堤さんは御存じだと思うんですけど、中学生物すごく一生懸命やっているのにそれが入っていかないというのは、そうしたら、そこが拾われる評価方法にしたほうが、皆さん前向きになれるんじゃないかな。どっちかというところとすごいやっているなというイメージがあるので、すごいやっているなというイメージが持てる評価方法と数字を出すべきかなとは、今後出すべきかなというふうには思いました。

- 子育て支援課長 貴重な御意見をいただいたところでございますので、次回以降ということなんですが、3月につくりました新計画のほうでは、すみません、やはり参考指標のほうに既に決まってしまうところがありますので、報告の書きぶりとして何か取り組んでいく内容が伝わりやすいように、なるべくそのような記載に努めてまいりたいというふうに思います。

- 金子会長 行政評価なので難しいことですが、細分化すればするほど見えなくなってくるものは確実にあって、もう少し大きくくりの評価があってもいいのかもしれないなというふうに思いました。これはこれでやるにしても、何かもう少し大きくくり、大きな目標を立てているものがどんなふうを実現したのかみたいなことは、数字ではなくてこれの総評みたいなものがつくれると、より分かりやすくなるのかなという気がしました。なので、そこはちょっと、行政のインパクト評価というのは本当に難しいことなので、御相談しながらやっていきたいかなと思います。

では、一応今回はこれでということに進めさせていただければというふうに思います。修正については私のほうで一任させていただいて、見させていただくという形になりますので、この後、ちょっと文字の修正等が入りましたら、私のほうで見させていただいて、市長のほうに提出するというようにさせていただきたいというふうに思います。

以上で、次第の（５）を終了いたします。

次に、（６）その他を議題とします。委員の皆様から何かございましたらお願いいた

します。ございますでしょうか。

以上で、次第の（６）を終了させていただきます。

それでは、本日の審議事項は以上となります。この会議は２年間の任期ということになりますので、本日最後ということになります。委員皆様から一言ずつ御感想や、あるいは次期会議に向けての引継ぎをお願いしたいことがございましたらお言葉をいただければというふうに思います。

大変恐縮なのですが、亀山委員のほうから順番にお願いできますでしょうか。

○亀山委員

一言じゃなくて長くなるのですが、申し訳ありません。

この会議は、子どもたちがよい環境になるようにと、とても熱い思いで話し合っている会議に参加させていただいて、本当に感謝しております。

最後ということで、評価に当たるのか、何を言っているのかが本当に分からないまま２年が過ぎたというのが正直なところで、ちょっと言いたかったことをここで言わせていただきたいなと思ひまして、すみません。

学校関係なんですけれども、スクールカウンセラーを必ず常駐というか、いらしたりいらっしやらなかったりという予約制になっているような気がするので、常駐していただきたいなと思うのと、学校の図書館の司書さんをやっぱり常駐させていただきたいんです。アンケートにも、図書館が子どもたちの居場所であったりとかするんです。安定して司書さんがいて、そこで本を楽しんだりという、ちょっと授業から外れた子たちもそこで受け入れてもらえるような、そんな体制があればいいのかなという思いがあります。保健室もそうなんです。子どもたち、本当に保健室で先生と心開いて話をして、ほっとします。先生方も、それから保護者の方も、保健室をととても大切に思っいらっしやるので、保健室の充実と、それと保健室の先生というのは学校の要なので、いろんなところの情報が全部入ってきて、一手に引き受けていらっしやるんです。だから、その負担を、ファシリテーターじゃないですけども、そういう方がいらして、そこを吸い上げていろんなところにつなげていただけるような、副校長先生がよくそういうことをなさっていると思うんですが、そういう人がいれば子どもは助かるんじゃないかなという思いがあります。

あとは学校以外で大事なのが児童館ですね。ゼロから１８まで受け入れて、なおかつ児童館に延長してくれとか、あんな子も受けてとか、本当に大変な思いでいらっしやると思うんです。そこの人員もそうですし、それから、充実を図って、先生方の本当に自

助努力だけでは限界というような感じがします。それと学童保育も同じですね。みんなたくさんの方が来て、場所が狭くて、学校の校庭が狭くなって、児童館も遊べるところが減ってきて、外を見ると、公園で遊ぶにも禁止していることが多くて、大人たちは子どもの声がうるさいとかいって窓を閉めてしまわなきゃならない施設もあつたりしますよね。だから、子どもを真ん中にといいながら、本当にそうになっていくんだろうかという思いがとてするんです。大人は仕事が大事ですから、どうしても自分の仕事で子どもたちを振り回しますよね。そこも改善していかなきゃならないし、だから、大人がもっと子どもに真摯に向き合って大切にして、家を出たら学校、学校出たら学童、学童出たら塾、何か子どもはこれで真ん中なんだろうかととても思ったりします。

だから、この会議が本当に熱い思いでいろんなことを考えてくださっているの、とても期待しています。それと、私が一番好きな場所はこども家庭センターゆりかごで、とても安心する場所なんです。子どもがしゃべっていて、ほっとして、また次に頑張っていこうという、非常にいい空気が流れていますので、大切にしていていただきたいんです。新しい場所が変わったときに、あの場所の雰囲気や壊れないように、大切にあの場所を守っていただきたい。あんな場所がどんどん増えていくと、どんなに生まれる子ども、生まれた子ども、親も安心して暮らせるんじゃないかなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

次の方々に本当に託したいと思います。2年間ありがとうございました。（拍手）

○喜多委員

私の場合は、もともと子どもの権利条例の制定過程のところから関わらせていただいて、最近では子どもの権利部会員をかなり長くさせていただきまして、特にこれまではオンブズ制度の設置、そしてその運営、設置後の開設についても、私なりに努力させていただきました。特にオンブズの評価・検証の部分をどうするかというのが部会で非常に議論になりまして、今この前の報告会で、これがやはりオンブズの検証の仕組みとしてはいいんじゃないかなというふうに感じていました。

あと最後、私が残されているもう一つ大きな部会のテーマは子ども参加の仕組み、意見表明、参加の仕組みづくりというところで、これはまだ具体的な形になっておりませんので、引き続きもう1期やらせていただこうかと思っているんです。最近の経験で言いますと、実は先日、教育委員会のほうも、教育評価の点検・評価委員会というのを私もやることになりまして、同じ子どもの問題なんだけど、どうして分かれているか。結構議論は同じ議論をやってきました。特にいじめの問題、不登校の問題な

んかは、こちらでやっていることの裏返しみたいなことをやってきましたので、いずれはそういう無駄を省くような方向に行けばいいのかなというふうに思いました。それはちょっと余計なことかもしれませんが、私の感想でした。

以上です。(拍手)

○後藤委員 2年間ありがとうございました。様々なお立場の方から様々な意見をお聞きすることで、本当に大変勉強になる2年間でした。今後も子どもを取り巻く環境がよりよくなるように、自分が何ができるかというのを考えていきたいなと思いました。

先ほどの佐藤校長先生の話でもありましたが、子どもは幼稚園、保育園から小学校に上がるとか、1日の中で学校に行き、学童に行く。全部続いているところが、大人の世界では分断されているというか縦割りで管轄が違ってくることがすごく起きているなというのがとても感じたので、どうやって連携していくのかという、私の職場の中でどうやって連携を取っていくか、周りのスタッフとどうやって連携を取っていくかというのも考えていきたいなと、とても感じました。

今日で私は終わりです、また新たに学保連から、今日傍聴に来ていますが、新しいメンバーへ交代するので、また学童の保護者の視点というのも引き続き持ち続けて学んでいきたいなと思っております。ありがとうございました。(拍手)

○小峰委員 すごくこの頃感じていることが、親御さんの保護者同士のつながりがすごく薄くなってきて、今までトラブルが、お金の問題とかけんかの問題とかいろいろ子ども同士であったときに、普通だったら知り合いの親御さんだったら、ちょっとこうだったねと言って終わることが、もう親の中で不安で不安でどうしていいかわからないというな、そんなような地域の現状になっているというのが今の現状だと思うんです。それをこういうパーセンテージ書いたり何名と書いているのを行政がやっている姿を見たりとか、地域とのギャップがすごく感じられるというのが、この会議に来ての、私の実は感想です。

あともう一つは、やっぱり縦割りということで、教育委員会、むしろ民生委員なので教育委員会とやることが多いので、子育て支援課がこういうふうに行っているんだなというのがよく分かったというのも、今回この会議に出させていただいてとてもよかったと思っております。

来年度は、喜多先生の、子どもの意見のことで、権利のことでもう少し勉強させていただきたいなと思って、民生委員のほうでぜひやらしてくださいとお願いして、もう1期頑張ることにしました。どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

○佐藤委員　　すみません、4月に来たばかりでもう終わってしまったんですけども。感想なんですけれども、短い限られた時間の中で評価していくとなると、どうしてもマイナス面が多く出てきちゃうんですけども、小学生の教育に携わる者として1つお伝えしたいことと言えば、小金井市の子どもに対するいろんな施策だったり教育というのは相当レベルが高いんじゃないかなというふうに思っています。すごくなかなか前向きな部分に光が当てづらい、こういう会議体にはなってしまうかなと思うんですけど、まあ、東京都の中でもこれだけレベルの高いことをやっていることはないなというのをいつも感じています。その辺の部分が、もっと出すのはなかなか難しいと思います、いいところばかりだねと出しちゃったら、何言っているんだというふうに言われちゃうから厳しくはやっていかなきゃいけないところだと思うんですけども、これを見たときに、市民が小金井いいなという部分も出せたらいいなというのが正直なところですよ。

小金井だけですよ、こんなに子どもが増えているというのは。ほかの自治体さんはどんどん子どもがいなくなっているのに、小金井はこれ以上増えたらどうするんだという状態に直面しているので、それはなかなか難しい問題ではあると同時に、小金井市がいい自治体であるということのあらわれであるかなというふうに思いますので、ぜひいいところもたくさん、いいところがたくさんあるということは、ここの方にいろんなところで言っただけだと、前向きな気持ちにみんながなれるかなというふうに思います。（拍手）

○清水委員　　今回、この会議を通じまして、やはり子育てを安心してできるのも、行政の皆さんのつながりであったり、各皆さんの立場でいろいろやっていただいているからこそということをすごい痛感いたしました。今後についても、地域で子どもを支える立場として、親だから見える目線というところを伝えていければと思います。2年間ありがとうございました。（拍手）

○水津委員　　今日実は午前中というか、とあるシンポジウムで伺ったお話が、大阪のグリ下の子どもたちを支援するためのNPO法人を立ち上げて、億単位の寄附金を企業から集めて、直接その子たちに支援をするという活動されている方たちだったんです。あと福岡の警固公園だったかな、ああいうところのたまり場になっているところの子どもたちの話があって、やっぱりその中で、ネグレクトもありますし、子どもたちが受けている性被害だとか、暴力だとか、親による搾取だとか、ヤングケアラーだとか、本当にすさまじい状況がある中に、子どもが少なくなっている中でそういう立場に置かれている子どもた

ちが増えているということがとても、どういうことなのかというふうに思いました。

同時に小金井市というところは豊かなまちですので、そういう問題から何となく平和ぼけで、あまり遠いところの話だなみたいに思うけれども、でも実際にはそこは表裏があって、ここのまちの子どもたちには、このまちの子どもたちにこそ必要な権利教育や主権者教育や、自己的人権はどう捉えるのかということをお教えるというか、親も子どもと一緒に考えるということがすごく重要だと思っているので、違うケースであるけれども、私たちだからこそ、ここのまちだからこそ伝えなければいけないことというのが絶対あると思っているので、もう少し権利部会の中で、啓発というところの工夫を、このまちの特徴を捉えてやっていけたらというふうに思いますので、今後ともよろしくお願いいいたします。(拍手)

○竹内委員 高校生の児童の代表として携わらせていただき、ありがとうございました。小金井市の取組を知るよい機会になったかなと思います。

前回、子どものほうが、高校生が傍聴させていただいたんですが、子どもやその友達に興味関心を抱くようになったのはとてもよかったかなと思います。喜多先生がお話しされたように、小さな市なので、今の取組を評価し、鎖国状態にならないようによりよい発展的な取組を、小金井のよさを前面に出して行っていただきたいなと思います。ありがとうございました。(拍手)

○長岩委員 2年間ありがとうございました。まず、この会に参加したきっかけをお話しさせていただきたいんですけども、ふだん生活していて、市が市民にどういった取組をしているのかということがあまりちょっと分からなくて、こういう機会が回ってきて、それを知るちょうどいい機会になるなと思って参加してみたんですけども、実際参加してみて、政策であったり事業を進めるに当たって、人材不足であったりインフラ不足というのが課題としてよくあったかと思えます。でも短期的に改善できるようなことではないので、それ以外でも情報発信であったり、相談窓口といった取組を市として全力でやっていただいているということが認識できてよかったなと思います。

自分もこれから数年後には子育てをする立場となると思うんですけど、そういった相談窓口だったり、そういうのがあるというのも本当に安心しましたし、自分としても今後、情報発信を周りにしていきたいなと思います。2年間ありがとうございました。

(拍手)

○長谷川委員 私も4月からということだったの2回ということで、もう終盤だったものですから、

あまり意見というか出せずに、議論のところには混じれなかったなという印象ではありますが、やはり子ども・子育て会議、こういう形で多岐にわたったものを評価していくというすごく大切な場だなというふうに、たったの2回ですけれども感じさせていただきました。

ちょっと施策の部分ですとかそういったものというのは、なかなか私、今の現状で語るのが難しいので、保育園という立場からお話をさせていただくと、やっぱり保育園、幼稚園がありまして、そのまま小学校、中学校、高校となりますけど、唯一保育園、幼稚園だけなんですよね、子どもが真ん中になれる施設というのが。当然消防法で全部決まっていますけれども、コンセントの位置も子どもの届く場所には置いてはいけませんということで高い位置にあたりとか、水道も全部低くなっていて、椅子やテーブルも全部子どものサイズになっている、こんな施設ないんですよ、社会の中で。社会で唯一ある、子どものためにというふうにつくられた施設というのが保育園、幼稚園であたりするんですよ。

なのでその施設、それだけ子どものためにというふうを考えられたこの施設の中で、我々職員が子どもを保育して育てていくというところをやっていくって結構とても重要なことだなと思っていて、やっぱり子ども真ん中というような、これから支えていきたいと思いますよねというふうに国を挙げてやっている中で、子どもが真ん中にいられるというのは、施設面だけでは絶対なくて、保育の業界ってよく言われる不適切保育というものがとてもあたりとかというふうにフューチャーされちゃうんですが、やはり施設、設備がどれだけ子どものためにそろっていても、それを使う大人たちが子どもを真ん中においてなければ、全てそういったものが無駄に終わってしまって、子どもが全て犠牲になってしまうという状況ができてしまっているんですよ。

なので、何よりもやはり大事なのが人権教育、子どもの人権もそうですけれども、働く職員も含めても、人権というものをどれだけ考えていけるかというのがとてもやっぱり大切になるかなというのを日々思いながら、職員にもこれは伝えていることなんですけれども、そういったところ、何よりも我々の意識をどんどん変えていかないといけないぞというようなところを感じながら、ちょっとこんなこと言っておきながら次期委員ではないんですが、そういったところをちょっとそういう思いで、こういった政策のところに関われたらすごくよかったなというのを、たった2回ですけれども感じておりました。

短い間でしたけれども、ありがとうございました。（拍手）

○村田委員 2年間ありがとうございました。民間幼稚園の幼稚園会の代表として来ておりますが、民間幼稚園の代表をやっておりますけれども、一番最初、この会議に出させていたたいたときに、さっきお話ありましたが、本当に質の高い議論をなされる会議なんだなと思いました。とてもじゃないけど自分では力が及ばない、そういうふうな皆さんの熱量ですとか、そういったものも物すごく伝わってくる会議なんだなと思いました。これに長いこと出させていただくことによって、自分ももう少し子どもの権利ですとか、今、自分たちが見ている小さな子どもだけじゃなくて、もう少し幅広い子どもたちの将来ですとか、この子たちにとって本当に大事なことは何なんだろうかということ学ぶきっかけをつくっていただいた、すごくすてきな会だと思えます。

この4月に小さな小さな学童保育を始めさせていただきました。それもまだまだよちよち歩きで、また7月から子ども食堂を始めて、いろんなことをやって、この小金井の子どもたちの育ちに関わっていきたい、貢献していききたいという気持ちにさせてくれる、本当にすばらしい会です。この委員をさせていただけたのに本当に心から感謝していますし、また来期も引き続き私も継続させていただきますことを、本当にうれしく思っています。またよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。（拍手）

○安岡委員 本当に2年間、といいましても、私は昨年度の4月に着任をしまして丸2年ではないのですが、前任から引き継ぎまして、この会議、私たち保健所の職員も含めて育てていただきまして、ありがとうございます。

私たちはどうしても圏域という単位で、小金井市を含む6市のところで、また、そこも多問題な御家庭ですとか、やはりごく一部のところの課題にどうしても、目の前のことでどうしようかといったところで、私自身もちょっと視野が狭くなりがちの中で、この会議に参加させていただき、地域でお子さん中心に養育されている方々をお一人にしないという市の具体的なお取組に触れることができまして、大変勇気づけられた思いでございます。

職員にも申しておりますのは、やはり地域のことは地域でお願いというわけではなくて、じゃあ私たち何できるの、やっぱり地域に足運んで、地域の住民の方々と手をつないで、皆さんの力を信じて、私たちも一緒に歩いていくことなんじゃないかというのは、私もこの1年少しでございますが、職員にも話しているところです。本当に貴重な機会

をありがとうございます。

私自身も小金井市さん、子ども・子育て会議をはじめ、ほかにも2つ、要対協ですとかほかの会議でも大変お世話になっておりまして、すごく愛着を勝手ながら感じております。私も力になれることがございましたらさせていただきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。（拍手）

○萬羽委員 2年間ありがとうございました。皆様の挨拶、すばらしかったのでどうしようかなと思っておりました。

私はふだんは直接子どもとか子育てと関わっているわけじゃないので、本当にこの会議に出させていただいてもあまりお役に立てず申し訳ないなと思っておりますけど、私自身はふだんあまり触れることのできない、子どもを中心に皆さん考える世界とここで接点を持つことができたことで、本当にいろんなことに視野が広がって、大変勉強になってありがたいなというふうに思っています。

会議も引き続きになるので、もうちょっと役に立てるように頑張ろうとは思っておりますけど、私自身の専門がここでは全く生かしてないんですけど、室内の環境を整えるというようなことをやっているの、やっぱりいろんなニュースとかを見たりしている中で、子どもたちが何より安全に暮らせるような住環境を整えるとか、地域の環境を整えるということに、専門の面でも今後また生かしていきたいなと思っておりますし、子どもたちが安全という最低限のことだけでなく、健康を守るとか安全を守るという最低限のことだけでなく、何かほっとするとか安心するみたいな環境づくりというのも本当はすごく大事だし、お金をかけなくてもちょっとした工夫で環境をよくするというところはいろいろできたりするので、何かそういうところももう少し自分も研究しながら、アピールしたりとか、環境整えることの大切さというところを、またいろいろ勉強しながら貢献できるように、会議以外のところでも小金井の子どもたちの環境をよくしていくというところに貢献できるようになりたいなと思っておりました。ありがとうございました。（拍手）

○金子会長 ありがとうございます。私のほうからも、最後に一言申し添えさせていただければと思います。

私も実は教育が専門なので、なかなか福祉のことは初めてのことが多くて、まず、なかなか皆さんの意見をうまくまとめられたかというところがすごく心残りなところではあるんですが、本当に僕の感想としては、本当に行政の方たちの、ここまで大変なのかというのが一番最初に感じたことであります。委員の皆さんも感じられたんじゃないか

などというふうに思います。実際学校では、先生いらっしゃるんであれですが、教員の多忙化というものが一番問題になっていて、実はその先には子どもたちの多忙化というものが大きくあって、カリキュラムオーバーロードということが言われています。

学ぶことが多過ぎるとというのが今の子どもたちの状況なんです、本当に今回、子どもの定義が40ちょっと前ぐらいまで、子どもの定義自体がかなり広がった上に、多分、前は子ども・子育て会議って本当に子育てのことを中心にやっていたんだと思うんですが、広く40代手前の方まで範囲に入れなければいけなくなってきたということも、僕にとって驚きだったんですが、子どものカリキュラムオーバーロードと同時に、やっぱり行政のほうもオーバーロードしているというのが、まさに人口が減少していく状態の中で、行政をどういうふうに維持していくのかというのは、すごく子育てとか子どものことだけではなく、すごい大きな問題になっているんだなということを痛感したところです。本当にこれだけ分厚い、これだけの事業をやっているのかというのは、本当に驚きだったというところがあります。

なので、やっぱり特に福祉の分野においては、当然行政が頑張っていたところはあるんですが、行政以外のところとかいうものをどうやって行政が支えていけるかということを考えていかないと、全部行政頼りにしていくと多分、本当に行政がオーバーロードしていきたくらうなと思うので、次回、地域においてどんなふうに行政以外のサービスとか、お互いの互助みたいなものが起きていくかというところが本当にキーになっていかなければいけないのかなと思ったということです。

なので、私も実は次回も引き続きということになるので、そのところもちょっと、本当に整理というよりは、行政がやること、地域でやることというのを一定程度分けていかないといけないだろうなと思っております。なので、市民のボランティア参加みたいなどころまで行政が評価を受ける必要があるのだろうかというようなことも、正直思ったところです。評価の仕方みたいなことも考えていかなきゃいけないかなと思いますし、これを見ていると、やっぱり評価がかなりマイクロ化していってしまう。マクロな評価というのはなかなか多分できていないという現状があるだろうなと思って、こゝろは言うけど全体としてはこうだったよねみたいな評価がうまくできるようになるといいのかなというふうに感じました。

本当に2年間、なかなか拙い会長だったと思いますが、皆さん本当にありがとうございました。（拍手）

では、事務局のほうから何かございましたらよろしくお願ひいたします。

○子ども家庭部長 皆様におかれましては、2年間本当にありがとうございました。様々な意見をいただきまして、私自身も勉強になりました。また引き続きお願いしていらっしゃる委員の方もいらっしゃると思いますけれども、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。御尽力に大変感謝しております。

特に今期におきましては、「のびゆくこどもプラン」の改定がございました。先生のお話にもあったように、子ども観という自体が変わってくるこの大きい変化の中で、そして子どもの権利をより考えていかなきゃいけない中で御尽力をいただいたこと、大変ありがたく思っております。

今年度の後半の審議には、次期子ども・子育て会議のメンバーの方々にバトンタッチしていただくということになっておりますが、新計画の評価・検証が予定されておりますので、引き続き委員としての御協力をいただきたいと思います。

以上をもちまして、今期は終了ということになります。どうもありがとうございました。引き続き、様々な場面でよろしくお願ひいたします。（拍手）

○金子会長 ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、今期の会議を終了したいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。

— 了 —